



南の庭園から見た夜景。水平に伸びる連窓が折板屋根によって枠取られ、工場の水平なシルエットを強調



平面図 1/1500

北東からの外観。内部の製造ラインに合わせた高さの異なる折板屋根が、緑の背景に浮かび上がっている

南東外観。地上まで伸びる折板屋根と、深い軒のテラス連窓を組み合わせることで水平線を強調。屋根勾配は1/30 (特記以外の写真: 上田 宏)

# 5 アタゴ深谷工場 | 設計: 難波和彦+界工作舎

## 川と緑の景観を生かすシェルター

「アタゴ深谷工場」は、光学原理を応用して液体の糖度を測定する精密器械を製造する会社の新拠点である。創業時(1940年)から増築を繰り返してきた旧工場が手狭になったため、建て替えることになった。敷地は荒川上流の川縁にある畑を造成した緩やかな南斜面。効率的な製造ラインの再構成と同時に、川と緑

に溢れた風光明媚な景観を生かしたデザインが求められた。部品の製造・加工から組立・検査に至る複雑な製造ラインは開放的な箱型のシェルターに納める構成とした。これによって将来の製造ラインの変更を許容するフレキシビリティ、景観への対応を実現した。さらに、水平・垂直方向ともに3mのモジュ

ルに基づいて製造・組立ライン、鉄骨フレーム、屋根兼外壁のシェルター、設備配線・配管などをシステム化し、複合的に構成している。これはコストパフォーマンスを徹底的に追求した結果である。ガルバリウム鋼板の折板構法によるシェルターは、内部足場なしでグラスウール断熱パネルと一体施工で

きるうえ、軒の曲げ加工によって屋根と外壁の一体化が可能だ。

北面の開口は冬の北風を最小限に抑え、南面は芝生の庭と川の景観に向けて開放的な連続窓としている。北側のアプローチ道路から工場全体を見下ろすと、川と緑を背景に屋根と壁が連続する銀色のシェルターが浮かび上がり、南側の庭から見上げると天空を背景に水平な軒線が強調されたシェルターのシルエットが浮かび上がる。

(難波 和彦=難波和彦+界工作舎)

